

龍野ロータリークラブ週報

ロータリーのマジック

2024-25 年度国際ロータリー会長 ステファニー A. アーチック

	2024-25 年度 会長 片岡孝次 幹事 池田和由 広報委員長 萩野正和	例会: 毎週木曜日 12:30~13:30 龍野経済交流センター1階 事務局: 〒679-4167 たつの市龍野町富永 702-1 龍野商工会議所内 TEL 0791-63-4141 FAX 0791-63-4360 E-mail tatsuno-rc@tatsuno.or.jp
---	--	---

No.3 (3160 号) 2024 年 (令和 6 年) 7 月 18 日 (木) 晴
例会記録

点鐘	それでこそロータリー
来客	なし
来訪会員	なし

出席報告

会員数	出席	出席免除	欠席	出席率	前々回欠席	メークアップ	修正出席率
29	15	10	14	68.18%	3	3	100%

会長の時間 ●片岡会長

子どもたちにつなぐバトン

本日は、馬島都有子(まじまつゆこ)さまに「外国人の子どもたちについて」お話をいただきますが、私は「子どもたちにつなぐバトン」についてお話をさせていただきます。

関西大学の先生の研究では『高齢者を一日中無言で過ごさせない。孤独な食事を摂らせない。』ことが、認知症の発症を遅らせるとあります。

慶應大学理工学部の教授が座長を務める「住まいと住まい方のジェrontロジー(Gerontology: 加齢学)研究会」は、『ヒートショックが無く、冬場も温かい家に住まうこと』は、健康寿命を 2.9 歳延ばし、認知障害から認知症に移行する確率を三分の一程に抑えると報告しています。(このお話を別に機会を設けてお話をしたいと考えています。)

『播磨圏域連携中枢都市圏、経済成長のけん引部会』で、5 月に配布された資料によると、これまで通りの「子づくり・子育て行政」を続けた場合、播磨の 8 市 8 町人口、たつの市人口(カコ内)、宍粟市人口(カコ内)は、

2020 年 1,273,492 人・100% (74,316 人・100%) 《34,819 人・100%》

2025 年 1,229,596 人・96.6% (70,414 人・94.7%) 《31,628 人・90.8%》

2035 年 1,128,145 人・88.6% (62,988 人・84.8%) 《29,637 人・74.7%》

2045 年 1,014,613 人・79.7% (54,744 人・73.7%) 《20,720 人・59.5%》

と予測されており、14 歳以下の年少者人口、65 歳以下(生産者人口)の予測も同様でした。

62 歳になった私は、『ヒートショックがなく温かい家に住まい続けること。決して無言で一日を過ごさないこと。そして生涯納税を続ける現役』を貫き、出生率が 2 を上回った岡山県奈義町に学び、金銭面・精神面での不安や対立の無い、『高齢者の声も子供の声も、にぎやかに入り混じり聞こえる、誰もが四つのテストに照らして行動できる社会』というバトンを「子どもたちにつなぐバトン」として渡したいと考えています。

皆さまいかがでしょう? (戯言/住宅用の断熱材をお求めなら当社にご連絡ください。)



卓 話

●たつの市国際交流協会 会長

馬島都有子様

「外国籍の子どもたちの現状について」



みなさん、こんにちは。たつの市国際交流協会会長をしております馬島都有子と申します。この度はたつの市国際交流協会日本語学習支援事業にご理解ご支援をいただき心から感謝申し上げます。おかげで神戸YWCA学院日本語コース講師さんに依頼しアドバイスを受けてこのたび「子ども日本語支援入門講座」を開催することができます。本当にありがとうございます。

パンフレットを配布しているとおもいますが8月25日から9月29日にかけて4回開催します。ロータリークラブの皆さんそしてお知り合いの方で日本語学習支援に興味のある方はぜひ受講していただきたいと思います。

たつの市人口73649人(2023年3月31日現在)の内外国籍人口は約900名です。人口割合は1.2%で100人に1.2は外国の方です。10年前と比べるとたつの市も国際社会になりました。

たつの市国際交流協会は、規約第3条「たつの市の国際化と地域ぐるみの国際交流事業を推進し、市民の多文化についての理解と関心を高め、世界に開かれた魅力ある都市づくりと多文化共生の発展に寄与することを目的とする」に基づいて事業を展開しています。事業の一つである日本語学習支援事業はボランティア支援者の皆さんのが火曜日夜間クラス、水曜日クラス、毎月1回の「にほんご茶話会」、「あなたの日本語レベルチェック」そして子ども土曜日クラスなどに参加協力で頑張っています。ちなみに「あなたの日本語レベルチェック」は6月30日(日)に実施したのですが参加者は15名、アメリカ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フランス、ジャマイカ、ネパール、中国の方です。企業にも事業お知らせしています。ロータリークラブさんの中で外国から従業員を受け入れておられるところもあると思い

ます。よければ日本語支援事業、多文化理解事業を広報いたしますのでよろしくお願いします。

次に外国籍の子どもたちの学習理解の現状についてお話しします。土曜日クラスの子どもたちは約19名で毎週参加する子、しない子もあります。現在のところ学習者はペルー、ネパール、フィリピン、中国、インドネシア、ベトナムなどです。そして日本語ボランティア支援者は約20名ですが、ボランティア支援者さんたちにもそれぞれの事情があるので毎回1対1というわけにはいきません。学習者の子どもたちは年齢、学年、日本滞在年数、家庭内母語などにより理解度はそれぞれ様々で一人ひとり異なります。子どもたちの家庭はペルーであり中国です。つまり家庭は日本ではなく外国です。それぞれの母語を使って生活している家庭が多いです。これはこどもにはとても有意義なことだと考えています。たつの市国際交流協会は最低高校卒業と母語と日本語の二か国語バイリンガルを目指しているので家庭での母語教育はバイリンガルになるためにきちんとしてもらいたいと思っています。こういう外国人家庭では日本人家庭のように学校の宿題をチェックすることはなかなか困難です。それでも子どもたちは日常生活の日本語会話、買い物とか友達との会話は在日年数により保護者よりできるようになり保護者の買い物時や日本人との会話を助ける子どもたちもいます。

しかし、それだけ日本語が上手になっても学校での学習言語、すなわち先生の授業の日本語について行けない傾向があります。先生の授業の言葉は日常会話ではないのです。例えば学校の宿題プリントでは問題文書が理解できれば正解は出るのですが文書が理解できない。日本語の意味が理解できない。特に国語は説明するのも難しいです。テストの文書問題が理解できないので点数が低い。計算はできるが何を求めているのかわからない。たとえば「最初に10個リンゴがありました。Aさんに5個あげました。何個残っていますか」この文書の中で「あげました」「残っていますか」がわからない。答えはなにを求めているか理解できたら計算はできる。そんな具合です。時間がかかります。子どもたちも大変です。

それから、家庭での本読みはとても大切な毎日の課題ですが本読みを聞いて読み方が間違っているかいないか保護者はチェックがなかなかで



きない。日本人の子どもたちも本読みで日本語語彙を増やします。なので、日本人家庭と比べると日本語の語彙数は想像以上に少ない傾向があります。だからしりとりゲームは苦手だと思います。何度も同じ単語を言います。

現在学校側も外国籍の児童生徒への関心度はますます高くなっています。どのように学習指導すればいいのか苦心されています。

今回実施する「こども日本語支援入門講座」は学校、ボランティア支援者、たつの市広報掲載そして近隣の大学にも広報していただきました。興味ある方に参加研修していただき理解ある支援者になっていただきたい。また学校の先生方にも参加してもらい外国籍の子どもたちにどう説明し、どう話せば理解できるのかをわかつていただきたい。友達と普通に日本語で会話しているから授業も理解しているとは限りません。学校授業言葉は宿題プリントの文書と同様理解度はかなり

低いことを認識していただきたい。

この「こども日本語支援入門講座」は本当に悩み多きボランティア支援者が望んでいた講座です。特に子どもたちへの支援は今日したから明日結果が出るものではありません。継続してこそいつかは効果があると考えています。最低でも高校卒業し就職し働き税金を納める市民になってもらいたいと思っています。そのためにもボランティア支援者のレベルアップが必要です。学校に先生方の関心度を高めるため、また新支援者も必要な講座です。このような、たつの市国際交流協会事業に理解していただき日本語学習支援事業に関するこのような企画を毎年検討していただきたいと思います。このたびは本当にご理解ご協力いただき感謝申し上げます。これからもよろしくお願いします。

これで終わります。お時間をいただきありがとうございました。